

**令和２年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会
特定中山間保全整備事業 「邑智西部区域」 議事概要**

1. 実施日 令和２年８月６日（木） 15:30～17:30

2. 場所 農林水産省 別館７階 農村振興局第５会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授
大屋 典香 ビレッジプライド邑南事務局長
橋本 禅 東京大学大学院准教授

（敬称略、五十音順）

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長の選出

飯田委員を選出した。

(2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書（案）」について

事務局より説明を受け、質疑を行った。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業で整備された農用地では、地域の特性を活かした石見高原ハーブ米や坂本米をはじめ、広島菜、大麦若葉等が栽培されるとともに、農林業用道路は農畜産物の生産、集出荷等の効率化に貢献している。

また、本地域では、基盤整備といったハード事業と担い手育成や人材の確保といったソフト事業が両輪となって地域振興を推進している。

これらのことから、本地域の農村、農業のポテンシャルの向上に本事業の農業基盤整備が寄与していると評価できる。

（農用地整備）

区画整理により区画が整形・拡大され、耕作道や用排水施設が整備されたことと、暗渠排水等により排水不良の解消が図られたことが、営農経費の節減に貢献している。また、排水が改良されたことが広島菜、大麦若葉等の作付に繋がっている。

さらに、農地の管理が容易になったことが、農作業の受委託、農地の利用集積を促進させ、農業法人化や農作業コントラクターの展開等に寄与している。

（農林業用道路）

農林業用道路の整備により、農産物や堆肥原料となる石見和牛の糞尿をはじめとする畜産廃棄物の輸送に係る時間短縮、林地へのアクセスの向上が実現し、営農経費が節減されたのみならず、耕畜連携が進み堆肥が農地へ還元される等、地域資源の循環に貢献している。

また、整備された農林業用道路は、通常時の通勤や通院、買い物等日常生活の利便性の向上をもたらしたほか、平成 25 年 8 月の災害時には住民の避難路や物資等の輸送に活用されるなど緊急時の安全安心の確保に貢献している。

さらに、集落間の通行の利便性が向上したことで、道の駅や企業による原山農園、ハッピーベリー農園等の観光農園、桑茶をはじめとする 6 次産業化の試み、地域食材を活用した取組が進み、都市農村交流に寄与している。

（今後の農業振興や地域振興に向けて）

本地域では、稲作の持続性が課題であるが、ハーブ米のブランド化による高付加価値化と合わせて、減化学肥料・減農薬、緑肥作付の実践を生かし、「環境保全型農業直接支払交付金」等の制度を活用することによって、経営の安定化が見込められると思われる。

今後、地域ブランドである特別栽培米や石見和牛、桑茶等で、SNS やインターネットを活用したマーケティング戦略を展開し、消費者の嗜好をつかみ産地間競争力が強化されることを期待する。

また、都市住民の住まい方、レクリエーションのあり方等が変化している現在、本地域の抜きんでた食と農の魅力を発信することで、I・J・Uターンや本地域からのテレワークが増える効果が期待される。そのために、新たなライフスタイルに対応できるネットワーク環境の充実とさらなる活用が望まれる。

（以上）